澎湃

COVID-19: 14 日の隔離で十分か? 地域の状況次第と専門家

澎湃新闻 www.thepaper.cn 2021-01-04 20:48 来源: 环球网

環球網は、1月4日、北京市は当日午後、入境者に対する『14+7』日の隔離措置を厳格に実施すると同時に、中国国内の他の都市に入境して21日未満の者が北京市へ移動する場合は閉鎖管理措置を実行し、ウィルスの流入を厳重に防止すると報道。 これに先立ち、浙江省や遼寧省の大連や瀋陽などでも14日間隔離の基礎に立ち、夫々入境者に対する『14+7+7』や『14+7』の隔離管理措置を実施している。

(宮本注: ①『14+7』とは 14 日間の集中隔離+隔離解除者にはさらに 7 日間の在宅健康観察、 ①『14+7』とはこれに加えて更に 7 日間の日常健康観察をする措置です)

これは、北京や瀋陽での今回の流行の源となったのが、入境者が 14 日間の隔離期間満了後に『陽性となって』感染を広めていたことにある。 この以前に、PCR 検査の結果、多くの人が何度も陰性になった人が隔離期間の満了後になってから陽性に転じてしまうという事例が各地で出ていた。 ウィルスは海外で変異したものだが、冬以降の中国における流行予防管理の状況は複雑かつ厳しくなっており、元来の『14 日間の集中隔離』という政策が(正しいか否かを)試されている。 インタビューの中で、一部の専門家は、各地では地場の実情に応じて『14+7』の隔離措置を採用してもよいが、21 日という隔離期間は長すぎ、入境者の生活や仕事に支障をきたすことも有るため、全国で『画一的』に行なう必要はないと考えていた。。

14 日間の隔離期間満了後に PCR 検査で陽性となったのは少なくとも 5 人に

現在、国内では、『多地点での散発事案が拡散』している状況が続いている。1月4日、国家衛健委が昨日全国では、遼寧省の6例、河北省の4例、北京の2例、黒竜江省の1例を含む本土確診症例13例が新たに増えたと発表した。

『環球時報』記者は、最近、多くの局地的流行の特徴を調べていたが、公開された情報から、国内では少なくとも 5 人の入境者が 14 日間の隔離期間満了後に陽性反応が出ていたことを発見した。ヒトによって運ばれるウィルスは、伝染性を有しており、中国において局部的な流行を作り出すが、北京や瀋陽などが最も典型的なものだが、このために感染源の追跡及び予防管理が難しくしている。

インドネシアに長期間暮らしていた男性が、昨年 11 月 26 日に入境し、福建で 14 日間の隔離観察を受け、PCR 検査は全て陰性となっていたため、12 月 10 日に北京市順義区に到着した。 12 月 26 日に当該患者は PCR 検査で陰性となっていたが、二日後に PCR 検査をしたところ結果陽性となったが、この男性が今回の北京における流行の発生源となった(中国における PCR 検査回数/人っていったい何回検査をしてくれるのでしょうか? 自覚症状があっても必要な検査すら受けられない日本からすると羨ましい限りです!)。

北京の発生源を遡った結果によると、昨年 11 月 26 日 \sim 12 月 28 日日まで、当該患者は 14 日間の隔離期間を完全に終了していたが、32 日後に実施された検査で初めて PCR 検査で陽性になるとともに他の人にも感染させていた。

瀋陽における流行も北京と類似したものだ。 最初に確診された患者、尹さんは、11 月 29 日に韓国から 瀋陽に入境したが、PCR 検査の結果は陰性で、14 日後に隔離解除となった。12 月 23 日、尹さんは、PCR 検査の結果が陽性だったとの通知を受けた。この時点で、尹さんは既にウィルスを他人に感染させていた。 尹さんが韓国から入国した際も 14 日間の隔離期間があったが、約 1 か月後に初めて PCR 陽性となった。

1月4日、山東省浜州市が PCR 陽性感染者 1 例を報告したが、患者は昨年 12 月 19 日に英国から青島に入国、その後 3 回の PCR 検査、1 回の抗体検査をしたが結果は全て陰性であった。 1月2日、この感染者の隔離は解除されたが、1月3日にはすぐに PCR 陽性となった。

これに似たケースは、現在江蘇省無錫でも出てきている。 昨年 12 月 29 日、無錫市は輸入無症状感染者 1 例が隔離解除後の PCR 検査で陽性となったと報告していた。 この症例は、昨年 12 月 12 日に入国して

おり、隔離期間中 4 回の PCR 検査では全て陰性となっていた。 14 日間の隔離解除後、昨年 12 月 29 日に PCR 検査の結果が陽性となった。

昨年 12 月 8 日、重慶市で PCR 検査での陽性者 1 例を検出。 当該患者は、昨年 9 月にネパールから重慶入りしたが、何度もの PCR 検査で陰性となった後に、隔離を解除されて日常生活に入ったが、 $\frac{3 か月後の}{PCR$ 検査で陽性となっていた。

各地は入境者の柔軟な隔離措置をしつつ強化を図る

このウィルスの長期間の『誘導はあるが発症はしない』という問題に直面し、一部の地域では **14** 日間という隔離措置は既に不十分ではないかと考えられている。 入境者がその隔離解除後に陽性と判定されるリスクは徐々に高まってきている。

これを考慮して。マカオ新型コロナウィルス感染対応協調センターは、昨年 **12** 月 **21** 日に次のように述べている:

外部での流行状況の変化、英国でのウィルス変異の出現、及び 14 日間の検疫後に症例が確認されていることに対処するために、当日 10 時から、中国内地及び台湾地区以外の国・地区からの入境者の隔離期間を14 日間から 21 日間とする。

昨年 12 月 29 日、浙江省は、入境者に対する『14+7+7』健康管理措置を実施すると規定した。 入境者はまず、ホテルで 14 日間の集中隔離、その後 7 日間の在宅隔離の後『健康コード・グリーン』を獲得した後でも社区での最後の 7 日間の健康観察に協力せねばならないことになる。 続いて、北京でも入境者の管理監督を強化し、境外からの帰国者に『14+7』医学観察を厳格に執行するとし、14 日間の集中隔離後に更に社区における 7 日間の健康観察が求められる。 瀋陽や大連でも同様な調整をしている。

1月4日午後、北京市は21日以内に国内の他の口岸(港や空港、鉄道駅等の検査ポイントです)から入境した人々のための閉鎖管理措置の実施を発表した。 大連市は、当日午後の記者会見上、隔離状態期間を規定した『14+7』政策について説明をし、必須になる PCR 検査結果 4 回の全てが陰性となってはじめて自宅隔離を解除できると説明した。 大連市民政局の湯易局長は、当日の記者会見で、『大連における今回の流行には、長い潜伏期間、早い拡散、複雑な状況という特徴がある。 特に、11 度もの PCR 検査を経た後に陽性となった事例もあることで、この地域では6回の PCR 検査で陽性となった症例も出現している。このため、分析と研究を何度も繰り返した結果、もし従来の14日間の在宅隔離基準を機械的に実施すると不確実性が高まってしまい、流行の予防管理に潜在リスクを残すことになってしまうと判断したのだ』とした。

専門家は、全土で隔離期間の延長をする必要はないと主張: 14 日超の潜伏期というのは、まれな問題だが、日常の観察を強化せねばならない

全国で流行が『多くの地区に拡散』している背景のもと、全国的な範囲で入境者の集中隔離期間を延長する必要があるでしょうか?

武官大学医学部ウィルス所の楊占秋教授は、全土での 14 日間の入境隔離期間延長を主張しないという。『環球時報』記者のインタビュー時に、彼はこのところの各地での流行を見ていると、新型コロナウィルス流行の特徴や潜伏期間など人々が現在知っている範囲を超えてはおらず、現有の防疫措置は依然として有効であると分析してみせた。 各地で入境者が 14 日間の隔離後に陽性となった情況について、楊占秋教授は、「これは一つの例であって、正常なもの。 なぜならば、大多数の患者の潜伏期は 5 日前後で、約10%の患者で潜伏期が 2 週間前後と長くなっているだけだから。 潜伏期間がほぼこの範囲内である限り、それは正常なものであり、21 日の潜伏期というのは純粋に単なるケースにすぎない」と語る。

各地で『14+7』の隔離措置を実施していることについて、楊占秋教授は「これは、春節が近づいているときに地方政府が採るより慎重でより徹底的なアプローチ。他の場所でも同じ対策を講じる必要はないが、流行の進展に応じいつでも調整する必要はある」と語る。楊占秋教授は『14日の隔離期間満了後に陽性が検出される率が30%に達したら、全土での期間延長を真剣に考えねばならなくなるだろう』と語った。

北京大学公衆衛生学院の王培玉副院長も、『環球時報』記者のインタビューを受けた際に、現時点で、変異ウィルスに潜伏期間の延長はない、それゆえに、英国や欧州、香港からの人々には『2週間+1週間』の隔離実施と何度ものPCR検査の実施でよい。このほか、輸入食品物品のPCR検査の強化をする必要があるとしている。

春節がまさに迫っており、全国の人流が徐々に増大するため、流行リスクもまた上昇する。これに対し、 楊占秋教授は「ウィルス感染者の潜伏期は一般的に 5 日前後から 2 週間の間であり、春節前の二週間に新 たな発症者が出なければ、春節期間の流行を過大に心配する必要はない。」と

但し、楊占秋教授は、現在は全地域において日々の監視を強化し、感染者の迅速な検出、迅速な隔離ができるようにしておく必要があると認識している。

https://www.thepaper.cn/newsDetail forward 10651842

Is 14 days of entry isolation enough? Expert: According to local conditions, the whole country does not have to be "one size fits all"

The Paper www.thepaper.cn 2021-01-04 20:48 Source: World Wide Web

The World Wide Web reported on January 4 that in the afternoon of the same day, Beijing stated that it strictly implemented the "14+7" measures for immigrants, and announced the implementation of closed-loop management measures for those entering Beijing from other ports in China who entered Beijing for less than 21 days. Prior to this, Zhejiang, Dalian and Shenyang in Liaoning all implemented "14+7+7" and "14+7" isolation management measures for immigrants on the basis of a 14-day isolation period.

Correspondingly, the source of this round of epidemics in Beijing and Shenyang was caused by the "Fuyang" infection of immigrants after the 14-day quarantine period expired. Prior to this, there were many cases where the nucleic acid tests of immigrants were negative for many times, but they were tested positive after the quarantine period. The virus has mutated overseas, making China's epidemic prevention and control situation severe and complicated after the winter, and the original 14-day centralized isolation policy for entry is being tested. During the interview, some experts believed that the "14+7" quarantine measures can be adopted in accordance with local conditions. Since the 21-day quarantine period is too long, which may bring inconvenience to the life and work of immigrants, so there is no need to "one size fits all" across the country. During the interview, some experts believed that the "14+7" quarantine measures can be adopted in accordance with local conditions.

Recently, at least 5 immigrants have been tested positive for nucleic acid after the 14-day quarantine period

At present, the situation of "multiple spreading" of the domestic epidemic continues. On the 4th, the National Health Commission announced that there were 13 newly reported local confirmed cases nationwide yesterday, including 6 in Liaoning, 4 in Hebei, 2 in Beijing, and 1 in Heilongjiang. When combing through the characteristics of the local epidemics in many places recently, the Global Times reporter found that the reporter combed through public information and found that recently at least five immigrants in China have been tested positive after the 14-day quarantine period. The viruses carried by individuals are even contagious and cause local epidemics. Among them, Beijing and Shenyang are the most typical ones. This undoubtedly increases the difficulty of tracing the source of the epidemic and preventing and controlling it.

After a complicated epidemiological investigation, Pang Xinghuo, deputy director of the Beijing Municipal Center for Disease Control and Prevention, disclosed the traceability results of this round of the epidemic at a press conference on December 30 last year. A man who has lived in Indonesia for a long time entered the country on November 26 last year and was quarantined in Fujian for 14 days. The nucleic acid test was negative and he arrived in Shunyi, Beijing on December 10. The nucleic acid result of this case was still negative on December 26, but the nucleic acid result turned positive two days later. And this man is the source of the epidemic in Beijing.

According to Beijing's traceability results, from November 26 last year to December 28 last year, the case went through a complete 14-day quarantine period. It was only 32 days later that the case was tested positive and the virus was transmitted to others.

The epidemic in Shenyang is similar to Beijing. The first diagnosed case, Yin, arrived at Shenyang Airport from

South Korea on November 29. The nucleic acid test was negative and was lifted medical observation after 14 days of isolation. On December 23, Yin was notified that the nucleic acid test result was positive. At this time, Yin had already transmitted the virus to others. Yin, who entered from South Korea, also went through a complete 14-day quarantine period, and was tested positive for nucleic acid nearly a month later.

On January 4, Binzhou, Shandong notified a case of nucleic acid-positive infection, who flew to Qingdao from the UK on December 19 last year, and then carried out 3 nucleic acid and 1 antibody tests, all of which were negative. The infected person was released from quarantine on January 2 and was promptly tested positive for nucleic acid on January 3.

The same situation also appeared in Wuxi, Jiangsu. On December 29 last year, Wuxi of Jiangsu Province notified a case of imported asymptomatic infection after being released from quarantine with results of positive nucleic acid tests. The case entered the country on December 12 last year. During the quarantine period, the 4 nucleic acid tests were negative. After the 14-day quarantine period expired, the case was found to be positive for nucleic acid on December 29 last year.

Earlier, on December 8 last year, Chongqing detected a nucleic acid-positive patient. The patient entered Chongqing from Nepal in September last year. During this period, after multiple nucleic acid tests were negative, he was released from isolation and returned to normal life. He was tested positive for nucleic acid only three months later.

Flexible and strengthen immigration isolation measures in many places

Faced with the long-term "induction but not transmission" of the virus, the 14-day entry quarantine is no longer sufficient in some areas. The risk of an immigrant being tested positive after the isolation is lifted is gradually increasing.

For this consideration, the Macau Novel Coronavirus Infection Response Coordination Center stated on December 21 last year that: The quarantine for entry from countries and regions outside the mainland of China and Taiwan has been increased from 14 days to 21 days since 10 pm that day to cope with changes in the external epidemic, the emergence of virus variants in the UK, and the occurrence of confirmed cases after 14 days of quarantine.

On December 29 last year, Zhejiang stipulated the implementation of "14+7+7" health management measures for immigrants. The entrants will be quarantined at the hotel for 14 days, and then quarantined at home for 7 days. After obtaining the "Green Health Code", they must cooperate with the community to complete the last 7 days of health monitoring. Subsequently, Beijing also strengthened the supervision of entry personnel, strictly implemented the "14+7" medical observation on the returnees from abroad, and after a unified centralized isolation for 14 days, the community health monitoring was carried out for another 7 days. Shenyang and Dalian made the same adjustments.

On the afternoon of January 4, Beijing announced the implementation of closed-loop management measures for people entering Beijing from other ports in China who have entered Beijing for less than 21 days. Tang Yi, director of the Dalian Civil Affairs Bureau, said at the press conference that day, "The epidemic in Dalian has the characteristics of a long incubation period, a fast spread, and a complicated situation. In particular, some cases showed positive results after 11 nucleic acid tests. There were still positive cases in 6 rounds of testing in the region. Therefore, after repeated analysis and judgment, if the original 14-day home isolation standard is mechanically implemented, there is bound to be greater uncertainty, which will bring hidden dangers to epidemic prevention and control."

Experts do not advocate extending the quarantine period nationwide: the incubation period exceeding 14 days is purely a case, but daily monitoring should be strengthened

Under the background of "multiple spreading" of the epidemic nationwide, is it necessary to implement the extension of the centralized isolation period for entry nationwide?

Professor Yang Zhanqiu of the Institute of Virology of Wuhan University Medical Department does not advocate extending the 14-day quarantine period nationwide. In an interview with the "Global Times" reporter, he analyzed that from the recent epidemics in various places, the epidemic characteristics and incubation period of the novel coronavirus have not exceeded the current cognitive range, and the existing epidemic prevention measures are still effective. Regarding the situation where people entering and leaving the country were tested positive after 14 days of isolation, Yang Zhanqiu said, "This is a case and it is normal. Because the incubation period of most patients is about five days, only about 10% of the cases will have a longer incubation period, reaching about 2 weeks. As long as the incubation period is roughly within this range, it is normal, and cases with an incubation period of 21 days are purely isolated cases.

Regarding the implementation of "14+7" isolation management measures in many places, Yang Zhanqiu said; This is a more cautious and thorough approach taken by local governments when the Spring Festival is approaching. It is not necessary for other places to take the same measures, but should adjust at any time according to the development of the epidemic. Yang Zhanqiu believes that "when the number of positive infections reaches 30% after the 14-day quarantine period, we should really consider extending the quarantine period for the entire population."

Wang Peiyu, deputy dean of the School of Public Health of Peking University, also said in an interview with a reporter from the Global Times, "At present, the incubation period of the mutant virus has not been extended, so people from the UK, Europe, and Hong Kong are quarantined (2 weeks + 1 week) and checked for nucleic acid multiple times. In addition, nucleic acid inspections on imported food items should be strengthened."

As the Spring Festival is approaching, the flow of people across the country is gradually increasing, and the risk of the epidemic is also rising. In response, Yang Zhanqiu said, "The incubation period of a virus-infected person is generally between five days and two weeks. If there are no new cases two weeks before the Spring Festival, there is no need to worry too much about the epidemic situation during the Spring Festival."

However, Yang Zhanqiu believes that at present, all localities must strengthen daily surveillance to ensure that infected persons can be detected in time and quarantined in time.

14天入境隔离够不够?专家:因地制宜,全国不必"一刀切"

澎湃新闻 www.thepaper.cn 2021-01-04 20:48 来源: 环球网

环球网 1 月 4 日报道,当日下午,北京表示严格落实入境人员"14+7"措施,并宣布对从国内其他口岸入境未满 21 天的进京人员落实闭环管理措施。在此之前,浙江、辽宁大连和沈阳,都在 14 天隔离期的基础上,分别对入境人员实施"14+7+7"和"14+7"的隔离管理措施。

与此相对应的是,北京、沈阳此轮疫情源头均来自于入境者 14 天隔离期满后"复阳"传染所致。在此之前,各地多有入境者核酸检测多次阴性,但隔离期满后再被检出阳性的案例。病毒在海外变异,使得入冬后的中国疫情防控形势严峻而复杂,原有的 14 天入境集中隔离政策正在受到考验。采访中,有专家认为,各地可以因地制宜采取"14+7"的隔离措施。而 21 天隔离期过长,可能会带来入境者生活和工作上的不方便,因此全国不必"一刀切"。

近期已有至少5名入境人员在14天隔离期后被检出核酸阳性

目前国内疫情"多点散发"的态势仍在持续。4日,国家卫健委通报昨日全国新增报告本土确诊病例13例,其中辽宁6例,河北4例,北京2例,黑龙江1例。《环球时报》记者就近期多地局部疫情特点进行梳理时发现,记者梳理公开信息发现,近期国内已至少有5名入境人员在14天隔离期结束后,被检出阳性,个别人员所携带的病毒甚至仍具有传染性在当地造成局部疫情,其中以北京、沈阳最为典型,这无疑加大了疫情溯源及防控的难度。

经过复杂的流行病学调查,北京市疾控中心副主任庞星火去年 12 月 30 日在新闻发布会上披露了此轮疫情的溯源结果,长期生活在印度尼西亚的某男于去年 11 月 26 日入境,在福建隔离 14 天,核酸检测均为阴性,后于 12 月 10 日抵达北京顺义。12 月 26 日该病例核酸结果仍为阴性,但两天后被检出核酸结果转阳。而该男正是北京此轮疫情的源头。

根据北京的溯源结果,自去年 11 月 26 日至去年 12 月 28 日,该病例经历了一个完整的 14 日隔离期,整整 32 天后才被检测出阳性,并将病毒传染至他人。

沈阳此轮疫情与北京类似。第一例确诊病例尹某 11 月 29 日由韩国抵达沈阳机场入境,核酸检测为阴性,隔离 14 天后解除。12 月 23 日尹某被通报为核酸检测结果为阳性。而此时,尹某已将病毒传染给他人。由韩国入境的尹某同样经历了一个完整的 14 天隔离期,近一个月后才被检测出核酸阳性。

1月4日,山东滨州通报1例核酸阳性感染者,系去年12月19日由英国飞抵青岛入境,之后进行了3次核酸和1次抗体检测均为阴性。1月2日该感染者解除隔离,1月3日被及时检出核酸阳性。

相同的情况也出现在江苏无锡。去年 12 月 29 日,无锡通报一例境外输入无症状感染者解除隔离后核酸阳性。该病例去年 12 月 12 日入境,隔离期间 4 次核酸检测均为阴性,14 天隔离期满解除隔离后,去年 12 月 29 日被发现核酸阳性。

更早前的去年 12 月 8 日,重庆检出一例核酸阳性患者,该患者于去年 9 月从尼泊尔入境重庆,期间经多次核酸检测均为阴性后,解除隔离回归正常生活,三个月后才被检出核酸阳性。

多地灵活强化入境隔离措施

面对病毒长期"引而不发",14天的入境隔离在某些地区已嫌不够,入境人员隔离解除后再检出阳性所带来的风险正在逐渐加大。

出于该种考虑,澳门新型冠状病毒感染应变协调中心去年 12 月 21 日表示,自当日晚 10 时起从中国内地及台湾地区以外国家和地区入境隔离由 14 天增至 21 天,以因应外围的疫情变化、英国出现病毒变种,以及有出现 14 天隔离后确诊个案。

去年 12 月 29 日,浙江规定对入境人员实行"14+7+7"健康管理措施,入境者先在酒店进行 14 天集中隔离,再进行 7 天的居家隔离,获得"绿色健康码"后,还要再配合社区完成最后 7 天的健康监测。随后,北京也强化了对入境人员的监管,对境外回国人员严格执行"14+7"医学观察,统一集中隔离 14 天后,再进行 7 天社区健康监测。沈阳和大连进行了同样的调整。

1月4日下午,北京宣布对从国内其他口岸入境未满21天的进京人员落实闭环管理措施。大连在当天下午的新闻发布会上对"14+7"政策做出解释,规定隔离状态期间,要做4次核酸检测,均呈现阴性才能解除居家隔离。大连市民政局局长汤易在当天的发布会上表示,"大连本次疫情具有潜伏期长、传播速度快、情况复杂等特点。尤其是有的病例做了11次核酸检测才显出阳性,有的地区检测6轮还有阳性病例出现。因此,经过反复分析研判,如果机械地执行原来的14天居家隔离标准,势必存在较大不确定性,给疫情防控带来隐患。"

专家不主张全国范围内延长隔离期:潜伏期超14天纯属个案,但要加强日常监测

全国疫情"多点散发"的背景之下,是否有必要在全国范围内统一实行入境集中隔离期的延长?

武汉大学医学部病毒所教授杨占秋不主张在全国范围内将 14 天的入境隔离期进行延长。在接受《环球时报》记者采访时,他分析认为,从近期各地疫情上来看,新冠病毒流行特点、潜伏期等并没有超出目前认知范围,现有防疫措施依旧有效。至于多地检出入境者隔离 14 天后再被检出阳性的情况,杨占秋表示,"这是个例,属于正常现象。因为大多数病人的潜伏期是在五天左右,只有约 10%的病例潜伏期会长一点,达到 2 周左右。只要潜伏期大致在这个区间范围都属正常现象,潜伏期达到 21 天的案例纯属个例。"

对于多地实行"14+7"的隔离管理措施,杨占秋表示,这是地方政府在春节来临之际比较谨慎和周全的做法,其他地方没有必要采取相同的措施,而要根据疫情发展态势再随时调整。杨占秋认为,"当阳性感染者在 14 天隔离结束后被检出达到 30%时,我们就真的该考虑全民延长隔离期了。"

北京大学公共卫生学院副院长王培玉接受《环球时报》记者采访时也表示,目前来看,变异病毒的潜伏期并没有延长,所以对英国、欧洲、香港来的人实施隔离(2周+1周),并多次检查核酸即可。此外,应加强对进口食品物品的核酸检查。

春节将至,全国人员流动量正在逐渐加大,疫情风险也随之上升。对此,杨占秋表示,"病毒感染者的潜伏期一般是在五天到两周之间,如果春节前两周没有新发病人,就不必太担心春节期间的疫情形势。"。

但杨占秋认为,目前各地要加强日常监测,确保能够及时发现感染者并及时进行隔离。

20210104H COVID-19: 14 日の隔離で十分か? 地域の状況次第と専門家(澎湃新聞)